


8月22日 比良 (秋山トレーニング)

平尾 繁和

山名	比良	山行名	例会 (秋山トレーニング)			
ルート	イン谷口～大山口～青ガレ～金糞峠～北比良峠～大山口～イン谷口					
山行日	2020年8月22日 (土)	天候	曇りのち晴れ			
参加者	CL:平尾 SL:藤村 女性5名、男性9名 1班:中田、木元、伊藤多、玉置、永井、和田、2班:西川洋、山下剛、木田、倉光、黒崎、徳田 /14名					
ルート概略	コースタイム					
省略	地名		時:分	地名		時:分
	京田辺	発	6:40	金糞峠	着	10:15
		着	8:10		発	10:25
	イン谷口	発	8:25	北比良峠	着	11:05
		着	8:35		発	11:40
	大山口	発	8:40	大山口	着	13:10
		着	9:30		発	13:20
	青ガレ	発	9:30	イン谷口	着	13:30
		着	9:30		発	13:45
	<p>夏山集中登山が9月に延期になった関係で、初めての8月猛暑のなかの秋山トレーニングとなった。土日からは傘マークも入り、少しは暑さも収まるかと思っていたが、暑さは変わらず。予報では昼過ぎから降水確率が上がり、雷注意報もだされたままで午後からの雷雨も懸念された。熱中症にならぬよう、当初の計画を短縮して実施することを最初の挨拶でのべました。イン谷口のトイレ前には車がほとんどなかった。2班に分けスタート。大山口の手前で最初の休憩。汗が流れる。青ガレにかかるところでストックをしまうよう後から声をかけたが徹底できなかった。数人の登山者と出会う。ノリウツギ (ユキノシタ科、アジサイのなかま) の白い花が目についた。金糞峠には10時過ぎに到着。湿度が高く天気が下り坂に向かうせいか小さな虫が寄ってきたので早々に出発。当初の八雲ヶ原へは向かわず、北比良峠へ向かう。足元にはアカモノ (ツツジ科) の小さな花が見られた。11時過ぎに到着、昼休憩とする。見下ろす琵琶湖の景色は爽やか。武奈ヶ岳を遠くバックに集合写真を撮り、ダケ道を下る。湿度が相当高く汗が止まらない。大山口の沢について、みなタオルを水につけ、汗をぬぐい涼をえてさっぱりする。ケガもなく無事下山でき秋山に向けてのトレーニングの所期の目的は果たすことができた。早く下りたため湖西道も渋滞がほとんどなくスムーズに帰途をたどれた。猛暑のなか、みなさん本当にお疲れさまでした。</p>					
						
<p>※ 翌日湖南アルプスで見かけたサギソウです。この時期、八雲ヶ原でも見られるそうです。暑い時期ですが一度行ってみてください。</p>						
ヒヤリハット なし						



北比良峠で 武奈ヶ岳をバックに



大山口の手前



青ガレ付近で



北比良峠からダケ道へ



大山口の沢で汗を流しさっぱり

一言感想

和田 千恵

〇おとといの龍王山に引き続き猛暑の中での山行でしたが、先日より気温も日差しも少しはまして、途中の涼風や琵琶湖の眺め、川の冷たい水で癒されました。水の冷たさ

がこれほど生き返らせるのかと、改めて水の尊さやこの美しい自然を壊してはいけないと感じました。

西川 洋

○今年の夏は暑い中での近郊登山にいろいろ挑戦しました。この日は特に暑さを感じ、下山後の沢では、頭だけ川の中へぎぶん。天国でした。

木元 隆司

○久しぶりの登山。前日までの猛暑に比べると幾分かましだったが、歩き出すと、すぐに汗が噴き出てきた。傍らの沢の水音が涼しく聞こえるものの、この暑さはいかんともしがたい。青ガレを登り、金糞峠を経て、北比良峠に着いた頃は、Tシャツもパンツも帽子もタオルも汗でびしょり。夕方の雷雨予報があったため、八雲ヶ原は断念して早めの下山。大山口まで下りると、沢の水が冷たくて気持ちいい。生き返る心地。水の中につかりたい衝動に駆られる。沢登りにはまる人の気持ちが少しわかる気がした。

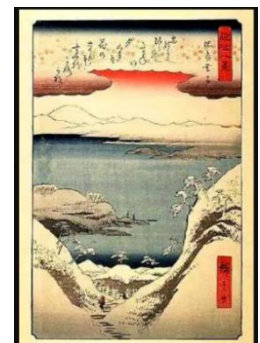
木田 修司

○比良山系への山行は、これまで「坊村」からしか登ったことがなかったので、今回の湖西からのアプローチを楽しみにしていました。暦の上では、処暑の前日ですが、相変わらずの暑さで、「天王山・十方山」では、「靴に滴り落ちる寸前」だった汗が今回は、靴の中まで大量に入り余り快適でない体験をしました。大山口へ下山道は大変歩きやすく、会話を楽しみながら「山友会」のことなども色々聞くことができ参考になりました。CL, SLの企画・準備等の作業や車の運転など、お世話になってばかりですので、経験を積みながら少しでもお返しが出来るようにしたいと思っています。今回もありがとうございました。

黒崎 高生

○山行前日も午後から雨と雷予報中止になるか微妙な予報でしたが当日は雨も大丈夫でした。10分程歩くと、もう汗まみれ青ガレを登ると2時間弱で金糞峠到着。今回で2回目の金糞峠になりますが、どうも気になる名です。金糞の意味を調べました。【「金糞峠」この峠に「かなぐそ(金属を精錬する時にでる残滓)」様の石が堆積していたことからついたと言われています。因みに同じ名で岐阜と滋賀の県境に金糞岳が.....麓には鉦山跡があり周辺には製鉄遺跡があるそうです。】駐車場手前の渡渉では、皆さん川で手や顔を洗ったり冷やしたりして疲れを癒していました。ありがとうございました。

最後に400年前の近江八景の一枚絵です。(金糞峠からの琵琶湖)



永井 繁一

○イン谷口～大山口～は、砂防堰堤で緩やかになった沢の流れを見ながらの歩き。花崗岩の白さと透きとおった水、これに太陽があたり清涼を感じながら気持ちよく進む。続く青ガレでは、なるべく大きくて平らな石を選び、足裏全面で踏みしめ、押し出す事を心掛けて比較的楽に登ることができた。が、ザレ場(状態)に入るとどうしてもつま先で地面を蹴りだす動きになり、砂礫がずれて力が伝わらず、しんどい登りであった。ときおり樹間からは琵琶湖を眺望できたが、もやでくっきり見えず残念。

登りきると金糞峠。比良山地の縦走路と横断路の交差点にあたるとのこと。名前が珍しく「鉄鋼のカスが出た」事がその由来らしい。北比良峠では、もやが薄れて眼下に広がる近江舞子の街並みと琵琶湖を見ることができた。また以前より登りたかった武奈ヶ岳(標高 1214m)は、北西の遙か後方に位置し、もう少し体力をつけないと難しいかなって感じた。絶対のぼる！！

暑くて湿度が高い雰囲気での山行、大量の汗で服が乾かず水に浸かったような状態！蒸し暑さにまいったが、下山途中の溪流に頭を浸け、汗を流すと暑さが吹き飛びとても気持ちイイ。今回の山行は暑さに参ったが、SLさんの適度な休憩やペース配分により、足を進める事が辛いと感じることも無くトレーニングを終えた。秋山に向かって一安心！

最後に、CL・SL・班長・車出し運転者さんはじめ、ご参加の皆さんありがとうございました。

伊藤多恵子

○電車で行き易かったことと何度行ってもそれなりに充実感があることで親しんできた比良ですが、今年は…遠かった！この例会に拾ってもらって何とか今年も行くことができました。暑い、暑い山行でしたが、見晴らしの良い北比良峠で風に当たると気分もスッキリ。やっぱり、来てよかった～！

ところで、この場を借りて一言お詫びを。昼食休憩の折に、Kさんの話題に異を唱えてしまいましたが、それは全く私の勘違いでした。話に水を差してしまって本当に申し訳なく思っています。Kさんの記憶・知識の豊富さにはいつも感心させられるばかりです。Kさんとその場にいたみなさん、すみませんでした！

倉光 展子

○今回の比良登山は、秋山訓練登山として計画されていたので、私には参加資格がないと思っていたところ、空きがあるということで、急遽参加させてもらった。今回もコロナ禍、熱中症への配慮として、登山時間は短縮され、少々物足りなかった。しかしアオガレを上り下りする時、久しぶりの比良山を楽しんだ。これからも、老体の力が続く限り、近場の比良山や鈴鹿山系をうろうろしたいものだ、そんなチャンスに多く恵まれますように、と思いながら欲張りばあさんは歩いた。お世話いただいた皆さん、ありがとうございました。